

第14回ISOE運営委員会 出席報告

1. 月 日 2004年11月16日(火)～19日(金)
2. 場 所 NEA本部(パリ、フランス)
3. 出席者

ISOE 幹部会メンバー

Jean-Yves Gagnon (Hydro Quebec) [Chairperson Elect] [ISOE Chairperson]
Carl Goran Lindvall (Barseback; Sweden) [ISOE Chairperson] [Past Chairperson]
Seong Ho Na (KINS; Korea) [ISOE Vice Chairperson]
Borut Breznik (NEK; Slovenia) [Past Chairperson]
Hans G. RIOTTE, Ted Lazo, Katsuyoshi Okamura (OECD/NEA)

ISOE 各技術センターのメンバー

[ISOE IAEA Technical Centres] Patricio O' Donnell
[ISOE European Technical Centres] Christian Lefaure, Lucie D'ascenzo
[ISOE North American Technical Centre] David W. Miller (U of Illinois)

Official Members 約 20 名以上

4. 議事概要

Administrative issues

開会にあたっての挨拶

NEA テッド氏の挨拶：今回は今まで NEA の事務局、および IAEA 技術センターの担当者が同時期に異動になり、運営グループ会合の事務手続きが遅れてしまった。また、私自身、急遽、事務局を代行することとなり、それに伴う不備を詫びたい。

議題の採択

2003 年運営グループ会合報告の承認

CRPPH 活動報告があった。

IAEA 活動報告があった。

2004 年 ISOE 活動報告

- ・各技術センター活動状況報告

尾形によりアジア技術センター(ATC)の活動状況を報告した。

水町部長による日本の職業被ばくに関するプレゼンテーションを行った。

- ・ISOE News

今後も続行することが決定した。

ISOE ウェブについて

開発中の ISOE ウェブ・フォーラム画面の紹介があった。今後はデータのグラフ化機能(MADRAS)も設置する予定。その開発ワーキンググループが発足することとなった。

ISOE3 レポートについて

日本はノルマとして来年の運営グループ会合までに5件発行することとなった。

ISOE の運営について

ISOE プログラムの活動戦略に関する新ワーキンググループの発足が承認された。

ISOE 幹部の改選

カダの Mr. Jean-Yves Gagnon が Chair elect から Chair に、スウェーデンの Mr. Carl Goran Lindvall が Chair から Past chair に自動更新された。スペインの Mr. Borut Breznik 氏が Past chair を退任され、新規の Chair elect として JNES 水町部長が就任した。日本の役員就任は今回が初めてのことである。

Country reports

各国からの国別報告

13カ国(ドイツ、ベルギー、カナダ、韓国、スペイン、米国、フランス、日本、スロバキア、ルーマニア、スウェーデン、スイス、ロシア)の事業者、規制側から報告がなされた。

日本の報告は、規制側から今回、欠席の MEIT の石渡統括代理で小森上席が報告した。電力側からは代表の東電菅井 GM より報告した。

日本は 2002 年、2003 年と原子炉 1 基あたりの集団被ばく線量が各国と比べて高いことから (BWR タイプではワースト 1)、官民協力して実態調査を開始したこと。ISOE データを活用しての調査状況報告、発電所のコンタクトパーソンへの調査アンケート回答依頼等を行った。

EDF 報告で放射線作業従事者総数がコントラクトを含めて 27750 人。日本の従事者数 6 万人強と比較すると半分以下となっている。(フランスの原子炉基数は 58 基、日本は 52 基)今後こうした点を調査することによっても、集団被ばく量が多い実態検討ができるのではないかと思われた。

Topical Session

ヨーロッパの職業被ばく検査の特性および構成

WGIP の紹介

OECD/NEA/CNRA/WGIP のワークショップは ISOE ワークショップとリンクしているため、相互の情報共有(提供)が有益である。

複数の発電所従事者および発電所従事者数の減少に対する 20mSv を見越した管理
フランスでは 2005 年から従事者の年間線量を 20mSv/y にする。(2004 年は 35mSv/y)
線量拘束値に関する報告 (ICRP 新勧告についての報告)

2005 年新勧告については、ICRP 委員長交代もあり 2006 年に延びる可能性あり。

ISOE 幹部(レベル 1-2)会合

- ・ 次回の日本開催予定の運営会合について話し合った。
- ・ 各技術センターの指針は新ワーキンググループが議論することとする。1 月 31 日にドラフトが発行予定。